

社会科学習指導案

児童 4年1組 男子17名 女子18名 計35名
 指導者 教諭 佐々木 英明

単元名「昔のくらしとまちづくり」
 ～アイヌの人たちの生活と文化～



**知里幸恵さんの営みを
4年生の社会科として教材化する**
 『アイヌ神謡集』を日本語訳した知里幸恵の営みは、アイヌの口承文芸を和人に伝えると共に、和人のアイヌ民族への理解を促したと言える。また、アイヌ民族にとっても、アイヌ語の翻訳は、伝統文化を守り、今に残す大きなきっかけとなった。
 こうして世に出た『アイヌ神謡集』が日本語とローマ字で併記された意味を追求することで、知里幸恵がいじめや差別を乗り越え「私はアイヌだ。何処までもアイヌだ。」と叫び、民族の独立を宣言した価値を明らかにしていく。そうすることで、知里幸恵の努力や苦心が代々のアイヌ民族に引き継がれ、現代のアイヌの生活・文化を形成していることが分かるようになる。
 本単元の学習を通し、現在、日本にはアイヌ民族を始め様々な民族がいて、互いを尊重し、共生の道を歩んでいくことが大切であると気付いていくのである。

【単元のポイント】
 知里幸恵の人物調べから、当時のアイヌの人たちのくらしにせまる
 北海道の地名の由来調べを進めていくと、多くはアイヌ語が語源であることが分かる。北海道開拓の過程を学習する中で、和人のアイヌの人たちに対するいじめや差別の状況を明らかにし、同化政策を進めた歴史を知るのである。

【単元のポイント】
 知里幸恵の営みが
 アイヌの伝統文化を守る
 『アイヌ神謡集』の出版を通して、アイヌ語が日本語とローマ字併記で翻訳した意味の追求から、知里幸恵が口承文芸であるカムイユカラを文字で表すことで、アイヌ語を守り広め、未来へ残していくことになったと価値付けていくのである。

【単元のポイント】
 未来に、世界に広がるアイヌ文化
 『アイヌ神謡集』が出された後のアイヌの人たちの営みについて調べる活動を通して、知里幸恵の意志を受け継いだ人たちが団結し、民族の歴史と文化を守ってきた事実を知り、北海道が世界に誇るアイヌ文化を後世の世界に残そうとする態度が知的にも情的にも育っていくのである。

単元構成（6時間扱い）……………本時4 / 6

中 単 元 3 わ た し た ち の ま ち を 開 いた 人 々 (6 時 間)	『アイヌ神謡集』を書いた知里幸恵さんはどんな人なのだろう？		
	【家では】 ・アイヌ語生活 ・おばあちゃんからユーカラを聞く	知里幸恵  【学校では】 ・いじめにあう ・控えめに ・成績は優秀 ・字もきれい	
	知里幸恵さんは学校でいじめに合いながらも一生懸命勉強し、日本語も上手になったんだ		
	知里幸恵さんたちがいたころのアイヌの人たちはどんなくらしだったのだろう？		
	・「北海道」と名付ける ・原始林を切り開き開拓を始める ・土地の私有化を始める	北海道の開拓といじめや差別 ・アイヌ民族の住む場所が官有地にさせられる ・日本語を使われる ・神の土地を奪われる	
	【開拓】	【同化政策】	
	北海道の開拓の中で、アイヌの人たちは和人と同じ生活をさせられたんだ		
	なぜ、知里幸恵さんはアイヌ神謡集を日本語とローマ字で書き表したのだろう？		
	・誰にでも読めるよう ・正しい発音で表記 ・子孫にアイヌ語を【守りたい】	アイヌ神謡集  残したい	・カムイユカラを ・アイヌの考えを ・自分たちの生活を【広めたい】
	アイヌ語を守り、カムイユカラを広めることでアイヌ文化を残そうとしたんだ		
アイヌ神謡集によって、アイヌ文化が日本に残り、未来へ伝わっていったんだ			
知里幸恵さんが亡くなったあと、アイヌの人たちはどうしていったのだろう？			
【力を合わせて】 ・知里真志保さんたちがアイヌ語を広めた ・遠星北斗さんたちが意志を継いだ	アイヌの伝統文化が残る	【文化を残す】 ・アイヌ語辞典を作って ・彫刻や食べ物も残していく ・クマのイヨマンテも復活	
北海道の大地に古くから残る素晴らしいアイヌ文化を自分たちも大切にしていこう			

本時のねらい

和人からいじめや差別を受けてきたという見方や考え方で『アイヌ神謡集』が和人の言葉で表現されているという事実との比較から問いを生み、知里幸恵さんが口承文芸であるカムイユカラを和人の文字で書き表した意図について、アイヌ語を[守りたい]と[広めたい]の二項重複構造から考え、アイヌ文化を残そうとした営みに価値があるととらえることができる。

本時の展開 (4 / 6)

おもな学習活動	
問いを意識する場	<p>知里幸恵さんが『アイヌ神謡集』を世に出すにあたり、当時のアイヌの人たちは開拓を進める北海道において同化政策が進められていく中で、差別に屈することなく和人の言葉を身につけるために苦労や努力を重ねてきたことを学習してきている。</p> <p>和人からいじめや差別を受けてきたという見方・考え方で『アイヌ神謡集』を表現したという事実との比較から問いを意識する場を構成する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[見方・考え方] 和人から差別を受け、いじめにあってきた</div> <div style="text-align: center;">見方・考え方と 事実との比較 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">[事実] 自分たちを虐げてきた和人の言葉でアイヌ神謡集を書いている</div> </div> <p>知里幸恵さんは、おばあちゃんから教わったカムイユカラを日本語とローマ字で書き表したんだ</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ語を使わせてくれなかったのに 自分たちをいじめてきた人の言葉なのに <p style="text-align: right;">知里幸恵</p>
対象を構造化し合う場	<p>なぜ、知里幸恵さんはアイヌ神謡集を日本語とローマ字で書き表したのだろう？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>【文字表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい発音で書きたい 子孫にアイヌの言葉を語り継ぎたい 誰でも読めるように アイヌ語がなくならないでほしい <p style="text-align: center;">守りたい</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>アイヌ神謡集</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; background-color: black; color: white; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">アイヌ文化を残したい</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>【和訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> カムイユカラをたくさんの人に知ってほしい アイヌの考えをわかってもらいたい アイヌの生活を知ってもらいたい <p style="text-align: center;">広めたい</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> カタカナでは正しく表現できない アイヌ語を残そうとしたんだ 言葉が残れば、生活も守れるんじゃないかな 和人にアイヌの世界を知ってほしい アイヌ民族を守りたいんだ アイヌ神謡集を通してアイヌ文化を残そうとしたんだ <p style="text-align: center;">アイヌ語を守り、カムイユカラの素晴らしさを広めることで、アイヌ文化を残そうとしたんだね</p>
対象と自分を結び付ける場	<p>『アイヌ神謡集』を書く過程において知里幸恵が描いた日記の記述の読み取りから、カムイユカラの文字表記と和訳の意味をとらえ直し、アイヌ文化を残す価値を自分と結び付ける場を構成する。</p> <p style="text-align: center;">「私はアイヌだ。何処までもアイヌだ。」 「同じ人ではないか。私はアイヌであったことを喜ぶ。」 7月12日の日記</p> <div style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> 知里幸恵さんはアイヌ民族としての誇りをもって『アイヌ神謡集』を書いたんだ アイヌの言葉や文化を残すのに強い意志があったんだね 知里幸恵さんの気持ちが今の時代にも伝わってくるよ 知里幸恵さんがいたからアイヌの言葉や文化の素晴らしさが今に残ったんだ <p style="text-align: center;">知里幸恵さんによってアイヌ文化が未来へと伝わることで、アイヌの人たちを守ったんだ</p>